

公刊にあたって

皆様のご協力のおかげで「図説 わが国の慢性透析療法の現況(2004年12月31日現在)」(以下「現況」)をここに発行する運びとなりました。

「わが国の慢性透析療法の現況」(1978年まで「わが国の慢性透析療法の現状」)の歴史は、人工透析研究会の事務局を率いていらした千葉大学の小高通夫先生が、事務局の業務としてはじめられたアンケート調査に始まります。1986年に人工透析研究会内に統計調査委員会が発足し、初代委員長に小高通夫先生が就任されました。1989年、京都大学澤西謙次先生が第二代、1990年より前田憲志名古屋大教授が第三代委員長に就任され、他疾患領域には類をみない、慢性透析患者に関する詳細な統計成果が、会員に報告されるようになりました。

2000年6月の透析医学会総会から私が第四代統計調査委員長を引き継がせていただきました。初年度は、理事会の強い指示を受け統計調査事務所を名古屋大学大幸医療センターから東京本郷の透析医学会事務所内へ移動いたしました。2001年には大型汎用コンピュータからDOS/Vマイコンと汎用データベースソフト「オラクル」へ変更し、帳票の変更に機敏に対応できるようになりました。このコンピュータの見直しにより、「現況」のCD-ROMによる配布が可能となりました。2002年には「電話帳」と酷評された紙ベースでの「現況」の出版を終了し、重要データを図表化した「図説 わが国の慢性透析療法の現況」の配布を開始しました。2003年には死因コードの国際標準への移行、データベースクリーニングの徹底、及び「倫理」「個人情報への配慮」および「利用規程」の決定をおこないました。

今年は、第一に従来から指摘されていた腹膜透析患者数が過少に把握されているのではとの疑問に充分答えること、第二に、「現況」をより臨床に役立つものとするため、データ解析の迅速化により「現況」へ統計解析の一部の掲載を試みました。

次に2004年末現在の慢性透析患者調査の経過について報告します。まず、本邦の慢性透析療法実施施設名簿を、本学会施設会員施設名簿に加えて、キーマンの先生方などのご協力により非会員施設、新規開設施設、前年把握した転院先・転入元透析施設などを加えて、2004年10月末日に作成いたしました。2004年末の統計調査対象施設台帳の施設数は3,932施設と2003年末対象施設数3,750施設と比べて182施設(4.85%増)となりました。すなわち今回初めてアンケートをお送りした施設は、従来の百施設程度の増加に比べ約1.8倍の増加で、その半数弱(72施設)が腹膜透析単独施設でした。

同対象名簿をもとに11月末にアンケート用紙ないしはフロッピーディスクを送付し、回答をお願いしました。2004年1月末日の締め切りの時点で回収施設1,832施設(46.59%)と回収率が低かったため、未回収施設に対して統計調査ご協力をお願いの葉書を送付しました。2月より未回収の施設には再度のお願いのFAXを送信しました。3月に入り、統計調査委員、同小委員、各県Key man、統計調査委員会事務局から電話によるお願いを複数回実施しました。調査用紙の回収は最終的には5月13日で締め切りました。

アンケート回収施設は3,882施設(前年3,717施設)と回収率98.73%(前年度99.12%)と昨年よりも0.39%減と、ほぼ同程度の回収率が得られました。新規に調査した腹膜透析施設155施設のうち83施設が患者なしとのアンケート回答で、危惧していた腹膜透析患者数の大きな変動はありませんでした。

未回収施設は50施設(前年度33施設)と「施設の方針により協力拒否」「(多忙・非会員などの理由で)協力拒否」をされる施設が増加しており、また、「個人情報保護法などが気になり、関わりたくない」施設が増加傾向にあります。

同様に、シート2、3、4未回収は138施設（前年87施設）と軽度増加、全シート回収は95.22%（前年96.80%）とほぼ維持され、慢性透析患者の現況を示す統計資料としての質を担保するものとしての十分な回収率を維持することができましたことは、会員各位のご協力の成果と考えます。

シート1から集計した2004年末の慢性透析患者数は248,166人であり、前年に比べて10,456名、4.4%の増加となりました。高齢化の進行、糖尿病の増加の中で粗死亡率は9.4%とほぼ同水準を維持できました。

2005年日本透析医学会学術集会においてこの「現況」が施設会員に配布されます。少し遅れますが、透析医学会Webサイトにも掲載させていただきます。また、最終的なデータ確認後、たくさんの帳票を含んだCD-ROMを施設会員にお送りさせていただきます。

以上、高い回収率で「図説 わが国の慢性透析療法の現況（2004年12月31日現在）」を公刊できるに至りましたのは、偏に会員をはじめ調査にご協力を頂きました皆様の、本統計調査に対するご認識の深さとご協力の賜物であります。厚く御礼申し上げますと同時に、統計調査委員会としましても臨床に役立つ情報をできる限りご提供できますよう、更に努力しなければならないと考えております。最後に、統計調査記載にご協力頂いた皆様、ならびに全国のKey manの皆様方のご努力に深く御礼申し上げます。

社団法人 日本透析医学会 統計調査委員会
委員長 秋 葉 隆